神のことばの主日（ルカ 1:1-4;4:14-21）

イエスは今も、私たちの心の目を開いてくださる

残念ながら、田平教会もミサの中止を決断しました。一定の時間、何十人も集まる状態を今の感染状況で続けることはリスクが高いと判断したからです。それで説教は手短に、そしてカメラの向こうにいる皆さんを意識して届けようと思います。ちなみに先週からミサが中止になった教会に助けられてか、先週の YouTube 動画視聴回数が激増しました。

教皇フランシスコは自発教令の形式による使徒的書簡『アペルイット・イリス（Aperuit illis）』を、2019 年 9 月 30 日に公布して、年間第三主日を「神のことばの主日」と名付け、「神のことばを祝い、学び、広めることにささげる」ことを宣言されました。以前にも聖ヨハネ・パウロ二世教皇が復活節第二主日を「神のいつくしみの主日」と定めました。教皇様の意向をよく汲んで、この一週間を過ごしたいと思います。

『アペルイット・イリス（Aperuit illis）』はラテン語でして、ルカ 24 章 45 節”Tunc aperuit illis sensum, ut intellegerent Scripturas.”(イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開い〔た〕）から引用されています。歴代教皇の文書はラテン語で発表されたものが公式文書です。そして公文書のタイトルはその文書の冒頭の単語二つがそのままタイトルになります。最近の回勅「兄弟の皆さん」もそうです。

福音朗読は、イエスがナザレの会堂でイザヤ書をお読みになる場面です。イザヤは、将来次のような日がやって来ると預言しました。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。」（4・18）旧約の預言が、実現する日が来たことを、イエスははっきりと宣言しました。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」（4・21）。イザヤが種を蒔き、蒔かれた種がイエスによって実を結びました。神のことばは、イエスによって完成するのです。イエスの登場によって、神のことばを完全に祝い、学び、広めることができるのです。

田平教会は、今年度聖書愛読の書巻として「ローマの信徒への手紙」を読み続けています。もしかしたらこのミサ中止によって読み終えることができないかも知れません。可能でしたら、ご自宅で続きを読んでください。神のことばは共にいるイエスのおかげで、家庭でも祝われ、学び、広めることができるようになったのです。聖霊の照らしによって、旧約の人々とは違って、十分に照らしをいただけるようになったのです。

私たちは今日からミサが中止になりました。けれども悪いことばかりではありません。この逆境を「神のことばの主日」をより深く考えるきっかけになったのだと考えましょう。イエスは今も、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と仰って、私たちの心の目を開いてくださいます。